

平成21年 5月10日現在

研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19520189
 研究課題名（和文） 19世紀中期のアメリカにおける大衆詩と大衆美術
 —その相互作用と相乗効果を中心に—
 研究課題名（英文） Illustrations to Popular Poetry in Mid-19th-Century America:
 Interaction and Synergy between Two Art Forms
 研究代表者
 澤入 要仁 (SAWAIRI YOJI)
 東北大学・大学院国際文化研究科・准教授
 研究者番号：20261539

研究成果の概要：

19世紀中期のアメリカでは大衆詩がひろく読まれたが、それは単にテキストとして読まれたのではなかった。それにはしばしば、当時の最新技術であった精緻な木口木版画(wood engraving)が添えられていて、目でも楽しむことができるようになっていた。すなわち大衆詩の流行は、当時の印刷文化の著しい多面的な発達に支えられていたのであって、現在、顧みられることの少ない Mary Hallock Foote などのイラストレーターや、A. V. S. Anthony などの彫師が、大衆詩人たちと同様、当時の出版文化を牽引していたのである。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：

アメリカ文学

科研費の分科・細目：

文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：

アメリカ大衆詩、アメリカ大衆美術、イラストレーション、印刷文化、ヘンリー・ワズワース・ロングフェロー

1. 研究開始当初の背景

(1)アメリカ史のなかで、19世紀は、おそらくもっとも詩が書かれ、出版され、そして読まれた時代であった。たとえば Henry

Wadsworth Longfellow らのいわゆる炉辺詩人たちが知識人から崇敬され、かつ大衆から敬愛されていた。また女性大衆詩人の活躍もめざましく、無数の詩集が出版されていた。さらに William Allen Butler など、炉辺詩人や女

性詩人に分類できない大衆詩人も多かった。

この19世紀のアメリカは、同時に、大衆美術が盛んに制作され、鑑賞された時代でもあった。たとえば家庭では、リトグラフが観賞用として普及し、居間に掲げられた。*Harper's Weekly*などの新しい大衆雑誌は、その呼び物として、木版画を多用した。このように19世紀アメリカの視覚文化では、本格的絵画よりもむしろ、これらの大衆美術の方が圧倒的な存在感を示していたのである。

興味ぶかいことに、これらの詩の流行と、大衆美術の流行は、深く結びついた現象だった。たとえば炉辺詩人たちの作品(Longfellowの“Excelsior”など)には、しばしば精緻な木版の挿絵が添えられた。あるいは、彼らの作品をモチーフにした商業美術(リトグラフ・木版画)が制作された(Longfellowの*Evangeline*など)。また逆に、詩人たちは、ときに商業美術から発想を得て、詩を作成したこともあった(Longfellowの“The Cross of Snow”など)。そこで本研究では、19世紀アメリカにおける詩と版画の接点を取り上げ、そこに見られる絡み合いと影響関係を究明する。

(2) 19世紀の大衆詩と大衆美術は、いずれも研究者たちから軽視されてきた。前者は感傷的、教訓的と退けられ、後者は、若き Winslow Homerの木版画を除いて、美術よりもむしろ史料として扱われてきた。本研究はまず、それらとともに軽視されてきた分野の交わる部分を吟味する研究といえる。

同時に本研究は、以下のような多様な学問研究の交錯点に位置しているともいえる。(1) 本研究は、ほとんど孤軍奮闘して長年 Longfellow 研究を発表してきた Edward Wagenknecht らの炉辺詩人研究 (*Henry Wadsworth Longfellow*, 1986 など) や、Paula Bernat Bennett らの貴重な女性大衆詩人研究 (*Poets in the Public Sphere*, 2003) に連なるものとして、19世紀中期の大衆詩という、この看過されがちなジャンルに光を当てる文学研究になるだろう。(2) また、James J. Best などがおこなってきた大衆美術研究 (*American Popular Illustration*, 1984) のケーススタディとして、これまで等閑に付されてきた19世紀中期の大衆美術研究に新しい具体例を提供できるはずだ。(3) さらに、Joan Shelley Rubin (“Listen, My Children,” 1998) などによる詩の読者研究、あるいは Leslie A. Fiedler が詩の受容の変化を論じた研究 (*What Was Literature*, 1982) などを引き継いだ、詩の受容研究になるだろう。(4) そして、文学と美術の融合という点では、20世紀初頭の豪華本を考察した Megan L. Benton らの書物文化研究 (*Beauty and the Book*, 2000) の前史になると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、19世紀中期のアメリカにおける、Henry Wadsworth Longfellow ら、いわゆる大衆詩人たちの作品と、それをテーマにした F. O. C. Darley らの挿絵や商業美術(リトグラフや木版画によるポスター・額絵など)を照らし合わせることによって、両者がどのような相互作用を及ぼしあっていたのか、そしてさらに両者がどのような相乗効果をあげているのか、を探ることを目的とする。

(1) まず、大衆詩をモチーフにした商業美術や挿絵を、美術による大衆詩の受容ととらえ、画家が大衆詩をどのように解釈して、どのように脚色したのか、その特徴と意義を明らかにすることである。そのさい、特に Longfellow の作品から考察を始める。大衆詩人の中で、もっとも商業美術が制作され、もっとも挿絵が添えられたのが、彼だったからである。

(2) また、大衆画家たちの活躍に光を当てて、彼らがどのように文学とかかわってきたのか、その関係を考察することが第二の目的である。19世紀中期を代表した本格的画家である Thomas Cole は作家 James Fenimore Cooper と交わり、ともにアメリカ風土の真実を求めたが、大衆画家たちは、その画業のなかで大衆詩をどのように「利用」してきたのか。本研究では特に F. O. C. Darley や Jervis McEntee, Thomas Moran を主たる研究対象とする。彼らは Longfellow や John Greenleaf Whittier の作品の挿絵や商業美術を描いただけでなく、Darley はのちの「アメリカン・イラストの黄金時代」を導く原動力に成長し、McEntee と Moran はのちに Hudson River 派の衣鉢を継ぐ本格的な画家に成長するからである。

(3) 本研究の最大の特徴は、大衆詩と大衆美術の接点を探るという点である。19世紀の大衆詩はもちろんのこと、大衆美術にしても、Winslow Homer の初期作品をのぞけば、盛んに研究されてきたとはいいがたい。すなわち本研究は、二つの見過ごされやすいジャンルの、見過ごされやすい接点に注目した研究であるといえる。

さらに、大衆美術研究の観点から大衆詩を考察し、同時に、大衆詩研究の観点から大衆美術を考察することに、本研究の独創性がある。二つのジャンルの接点を研究するだけでなく、二つのジャンルを重ね合わせ、透かし見ることによって初めて見えてくる新しい世界を明らかにしようとしている。

したがって本研究では、いまや忘れられてしまった詩や美術を再発見し、その真価を判定することが期待される。さらに、大衆詩が

大衆美術に及ぼした影響や、大衆美術が大衆詩に及ぼした影響をそれぞれ解明できると思われる。また、それらの大衆詩と大衆美術の相互作用を明らかにすることによって、その相互作用がアメリカ文化全体のダイナミズムの中で果たした役割や意義を見出すことにもなるだろう。すなわち本研究は、アメリカ文学史やアメリカ美術史のみならず、アメリカ文化史にも、ひとつの新しい重要なページを提供することになるだろう。

3. 研究の方法

本研究は2年間にわたり、以下のような方法で遂行された。

(1)まず初年度には、大衆詩の方に重点を置きながら、大衆詩の方から詩と美術の接点を研究した。すなわち、大衆詩の方から、大衆美術との接点を探し、それらを収集して分析したうえで、さらに広いコンテキストにおき、その価値や意義を考察した。

具体的には、もっとも多くの挿絵や商業美術が作られたと思われる Henry Wadsworth Longfellow の作品に関する調査から始めた。Longfellow の豪華版作品集に添えられた挿絵や、彼の作品をモチーフにした商業美術を数多く集めて分析したところ、物語詩 *Evangeline* (初刊 1847 年) の 1949 年版以降のイラスト版がイラストレーションの変遷をうかがわせて興味ぶかかった。そこで、*Evangeline* の各版を収集して、そのイラストレーションと作品との相互関係を調査した。

同時に、Longfellow 作品のイラストを収集するにつれ、イラストレーションを印刷する技術革新がイラストレーションの利用に大きな影響を与えていることが明らかになった。そのため、イラストレーション作成技術のみならず、それらを印刷する技術の進展について調査した。

なお、大衆詩や大衆美術の多くは、いわば泡沫文化とみなされることが多いので、日本の図書館に架蔵されているものは少ない。そこで、アメリカへ調査旅行を実施した。初年度はワシントンの議会図書館にて、日本で収集できない作品を収集することができた。

(2)次年度は、大衆詩の方から詩と大衆美術の接点を考察した初年度とは反対に、大衆美術の方に重点を置きながら、大衆美術の方から詩と美術の交わりを研究した。すなわち、19 世紀の挿絵画家や商業画家の作品を収集し、それらの作品が大衆詩からどのような影響を受けているのか考察するとともに、それらをさらに広い、アメリカ大衆美術史やアメリカ・メディア史といったコンテキストにおき、その価値や意義を探った。

まず、前年度、19 世紀のアメリカを代表する大衆的詩人 Longfellow の挿絵を調査しているときに見いだした女性画家 Mary Hallock Foote や、のちに 19 世紀アメリカを代表する本格的画家になる Winslow Homer のイラストレーションについて調べることから始めた。Foote は、西部のフロンティアや鉱山における生活を散文につづった作家として、現在、かろうじてその名を残しているが、そのイラストレーションはほとんど忘れられている。Homer の修行時代のイラストレーションも、後の本格的画業に比べるとなおざりにされてきた。

これらのイラストレーターが収録された出版物を調べると、クリスマス用に刊行されるギフトブック詩集が多いことが明らかになった。これらのギフトブックは主に当代の人気詩人たちの作品を集めたアンソロジーであることが多かった。そこで、19 世紀に刊行された各種のギフトブック詩集を収集して、そこに収められた詩とイラストレーションの相互関係を分析した。

最後に、以上のようにして収集した詩とイラストレーションを、大衆美術関連図書や、大衆史研究関連図書を参考にしながら分析した。そして、大衆詩と大衆美術が交わることによって生まれる現象を、メディア研究や大衆文化研究などの広い学問的コンテキストにおいて考察した。

4. 研究成果

(1)平成 19 年度は、19 世紀のアメリカで出版された詩集がどのような挿絵をとまっていたのか、実例を検証しながら考察した。とくに、Henry Wadsworth Longfellow の物語詩 *Evangeline*(初版 1847)の各版を集め、それらのイラストレーションを分析することによって、その変遷をたどった。

たとえば、この *Evangeline* のアメリカ初のイラスト版(1849)は、イギリス版の複製に過ぎなかったが、その背景には、Longfellow の著作権管理やステレオ版という技術革新があり、その複製を可能にしていた。19 世紀のアメリカを代表する挿絵画家 F. O. C. Darley が挿絵を描いた版(1866)では、Darley の自由闊達なペンタッチを、木口木版の彫師 A. V. S. Anthony が忠実に再現していて、凸版画とは思えない仕上がりになっていた。Longfellow 作品のなかでもっとも豪華なエディションである『イラスト版ヘンリー・ワズワース・ロングフェロー詩集』(1879-83)では、現在、挿絵画家として忘れられてしまった女流作家 Mary Hallock Foote が陰影に富んだ優れた挿絵を寄せていた。また Darley が再び挿絵を描いた 1882 年版は、グラヴィア版という新しい技術が使われていた。

さらに各版に描かれたエヴァンジェリンを分析すると、上記の豪華版『詩集』の頃から、18世紀の人物であるはずのエヴァンジェリンが、17世紀のピューリタン女性のような姿恰好で描かれるようになったことがわかった。すなわち、カナダのノヴァ・スコシア地方を追われてアメリカにきたという設定のエヴァンジェリンが、アメリカ人の先祖であるピューリタンになぞらえていたのである。Evangelineが叙事詩の機能を果たしていたことを伺わせる、ひとつの証拠といえるだろう。

(2) 平成20年度は、大衆美術や出版界の方から大衆詩と大衆美術の交わりを検討した。とくに、19世紀中ごろからさかんになった、ギフトブックや豪華本の出版に注目し、それらの出版物にみられるイラストレーションの効果を分析した。具体的には、William Cullen Bryantなどの詩にJervis McEnteeらが挿絵を添えた*Winter Poems* (1870)、Longfellowの作品にFooteらのイラストを付した*The Hanging of the Crane* (1874)、John Greenleaf Whittierなどの詩にWinslow Homerらが挿絵を描いた*Christmastide* (1877)などの貴重な古書を収集することによって、詩とイラストレーションが相乗的にお互いの価値を引きあげたことを明らかにした。

たとえば、ギフトブックは、詩人にとっても、イラストレーターにとっても、出版社にとっても、さらには読者にとっても有益な出版形態であったことが分かった。それは、詩人にとって、自分の作品をいわばヴィジュアル化することができる機会であった。すなわち、自分の作品に付加価値を付けて再版できる機会であった。イラストレーターにとって、それは、新聞や雑誌の仕事と違い、作品を入念に制作することができる機会であった。詩の助けを借りることによって大胆な表現も可能であったし、テキストを補う積極的な役割も果たすことができた。出版社にとっては、それは、より高価な書物を売ることができる機会だった。価格の異なる複数の装幀を用意することによって、幅広い購買層に売り込むことも可能であった。読者にとっては、それは、自分が知っている作品を、イラストによって喚起される世界と絡め合わせながら読み直す機会になった。あるいは、自分が好きな作品を、家族や友人に贈ることによって趣味を共有する機会になった。

なお、ギフトブックが盛んになった背景には、活字とともに版を組むことができる木口木版の発展があった。このような大衆美術の技術的な進歩についても調査した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

①澤入要仁、「過去と現在のあいだ——『ハイアワサの歌』における現実と空想」、『国際文化研究科論集』、16号、43～58頁、2008年、査読有

②澤入要仁、「挿絵のなかのエヴァンジェリンたち——19世紀アメリカの大衆詩とイラストレーション」、『国際文化研究科論集』、15号、1～17頁、2007年、査読有

③澤入要仁、「ジャーナリストの咆哮」、『英語青年』、1906号、30～32頁、2007年、査読無

6. 研究組織

(1)研究代表者

澤入 要仁 (SAWAIRI YOJI)

東北大学・大学院国際文化研究科・准教授

研究者番号：20261539

(2)研究分担者

(3)連携研究者